

先物協会

17年度事業計画・予算を縮小

売買数量の大幅減少予想に対応

先物協会は2月28日の総務委員会で、平成17年度の収支予算について、前年度比2割減の6億円弱の規模とすることを承認した。

改正商品取引所法の施行で、新たに純資産額規制比率が導入されることや、勧誘・受託に係る規制が強化されることなどによる出来高の大幅減を見込んで、それに対応する。

当初は3割削減方針

定率会費の算定基礎となる会員の売買高は、改正法に基づく商品取引員の許可更新で適用される純資産額規制比率が明らかになつた

昨年秋以降、減りはじめ、平成16年12月と17年1、2月は前年同月比で、それぞれ16.6%、15.44%、18.0%減少した。

この状況からすると、従来の売買高の推計方式(過去5年のうち最高最低を除く3年間の平均)に会員の売買シェアを乗じて見込枚数を算出)は適用できないと判断した。

そこで、平成16年1~12月(突出している3月を除)

近畿商取協会が誕生

取引所を越えて合併

大阪商品取引所の振興団体、大阪商取協会(会長、岡本昭岡安商事会長)と、関西商品取引所の振興団体、関西商取同友会(代表幹事、同)は2月23日、臨時総会を開き、合併することを決めた。新団体の名称は近畿商取協会で、4月1日に発足する。会長には岡本氏が就任する。

5月の改正商品取引所法施行に伴い、厳しい協会運営に迫られるため、合併して体制を強化する。両団体の共通会員は30社で、大阪商取協会単独加入会員は8社。社会、関西商取同友会単独加入会員が8社。両振興団体の合併への動きは、金融ビッグバンへの対応が課題になつた1999年にさかのぼる。当時、大阪商品取引所側には大阪三品協会と、大阪商品取引所ゴム協会の2団体があつた。合併を決めた関西商取同友会と大阪三品協会は、大



インド最大の商品取引所であるMCX (Multi Commodity Exchange of India Ltd.)が2月16日、東京工業品取引所と共に「エネルギー戦略に関する説明会」と題するセミナーを開催した。

月に上場したばかりの原油先物を中心とした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

国際戦略の一環として日本市場からの参加を呼び掛けるため、シニア・バイス・プレジデントのアルシヤドカーン氏が今年2月に登壇した。日本市場からの参加を呼び掛けるため、シニア・バイス・プレジデントのアルシヤドカーン氏が今年2月に登壇した。

大阪商品取引所振興団体合併の動きが再始動した。それ

で、まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、

食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

広告接觸率、45・2%と高い

「突き出し広告」効果調査

先物協会が広告代理店に委託して調査した「日本経済新聞 突き出し広告」(木曜朝刊の国際面に商品先物シリーズとして掲載。縦2段、横11行の記事の中の小

型広告)の広告効果測定調査結果がこのほどまとまつた。

今年1月28~29日にインターで調査した。対象者は日本経済新聞の定期購読者で資産運用に関心のある20歳以上の男女個人。調査地域は全国で、回答サンプル数は312。

調査結果をみると、この突き出し広告の「確かに見

る」「情報が少なく分かりにくい」「専門的で特殊な領域の投資だ」「誤解されやすい制度だ」といったネガティブな項目で、前回調査より20ポイント以上低い値を示し、多頻度(週1回)長期継続(3年間)の累積効果が出ている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

専修大学公開講座

「リスクに挑む」

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。

「リスクに挑む」をテーマにした講演、「我々のエネルギー市場に対する理解と新しい視点」を要請した。MCXが商品先物取引を開始したのは2003年11のこと。まだ歴史は浅いが、既に上場商品は貴金属、豆類、油料種子、食用穀物、金属、ゴム、香辛料、繊維、エネルギー、その他で30品目に達している。出来高も伸び続け、ヘッジも活発になっている。